



いま注目の資金調達手段 「GK—TKスキーム」とは

2020年7月オープンの川崎水族館（カワスイ、川崎市）を運営する「アクア・ライブ・インベストメント」（以下アクア社、東京都千代田区）など4社は4月4日、東京地裁から民事再生手続き開始決定を受けました。負債総額は4社合計で50億円以上。開業時からコロナ禍も重なり厳しいスタートとなるなか、資金繰りが限界に達しました。なお、カワスイ運営のグループ4社はスポンサーによる支援を得て、現在も営業を続けています。

「水族館の神」が手掛けた、都市型水族館

アクア社は、業界内で『水族館の神』の異名をとった代表が2019年3月に設立したベンチャー企業。都市型水族館のカワスイは「世界の美しい水辺」をテーマに、世界各地の生きものを展示していました。プロデュースしたのはこの代表で、1970年代に現・沖縄美ら海水族館プロジェクトへの参画以来、多くの名だたるプロジェクトに携わった人物でした。

そんなカワスイがオープンしたのが2020年7月。世界中が“未知のウイルス”の恐怖に怯え、日本でも1度目の緊急事態宣言が解除されたばかりの時期でした。多くのレジャー施設がそうだったように、当初見込んだ入館者数には届かず、赤字経営が続きました。2020年12月期の年収入高は約2億500万円を計上していましたが、ことしに入ってもオミクロン株の影響もあり入場者数の減少に歯止めがかからず、つ

いには追加の資金調達が困難となり、自力再建断念に追い込まれました。

匿名性ゆえのリスクには要注意！

新興ベンチャー企業でありながら、トータルで数十億円規模の資金調達を可能にしたのが「GK—TKスキーム」でした。

GK（合同会社）—TK（匿名組合）スキームとは、合同会社を営業者、投資家を匿名組合員とし、両者が匿名組合契約を締結する手法。合同会社が匿名組合員から拠出された資金で事業資産を取得し、当該資産から得られる収入が匿名組合員に分配される仕組みです。

水族館運営のアクア社も、季節ごとの収入変動や生きものの大量購入に対応すべく多額の資金が必要でした。このため、同社グループもGK—TKスキームを採用し、設立時に30億円近い資金の調達に成功しました。

一般的にGK—TKスキームは「太陽光発電事業」や「不動産投資ファンド組成」に活用されるケースが多いと言われます。事業者・投資家双方にメリットがある半面、匿名性ゆえ、資金の流れが不明瞭になりやすい点が指摘されています。最近でもこのスキームを悪用した太陽光業者や医療機関で、倒産後に不適切な資金の流れが明らかになりました。GK—TKスキームがすべて「悪」というわけではありませんが、こうした不正につながるリスクがあることは認識しておいて損はないでしょう。▲

ないとう おさむ 2000年に株式会社帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部、横浜支店情報部を経て2022年4月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は倒産動向分析、企業再生研究。